

INDEX

- p1 「第7回女性の健康週間 県民公開講座」ご報告
p3 日本医師会 第18回男女共同参画フォーラム
超高齢社会に向けての男女共同参画
～人生100年時代における多様な医師の働き方～ 参加報告

「第7回女性の健康週間 県民公開講座」ご報告

岡山県医師会女医部会副部長 溝尾 妙子



2024年2月23日(金・祝)、第7回女性の健康週間県民公開講座が開催されました。本会は、岡山県医師会女医部会が企画・運営しております。ご協力いただいた医師会関係の皆様には心から感謝申し上げます。今回は昨年に引き続きハイブリッド開催となり、参加者は、会場178名、オンライン100名、合計278名と、昨年より多くご参加いただきました。

今回のテーマは、「睡眠の大切さ ～すこやかな眠りのために～」でした。講演1では、岡山大学病院



大塚文男先生

総合内科・総合診療科 教授 大塚文男先生より、「総合診療にみる睡眠障害、コロナ禍での不眠」と題してご講演いただきました。岡山大学病院のコロナ・アフター外来患者約900人のデータ分析より、約1/5の患者に睡眠障害を認め、入眠障害・中途覚醒が多いのが特徴とのことでした。コロナ禍で不眠に悩まされる方が多い中、新型コロナ後遺症について先進的に取り組んでおられる大塚先生の最新情報に、

参加者は強い関心を持って聞いていたようでした。

講演2では、精神科医で新見公立大学看護学科 教授 井上真一郎先生より、「良い睡眠、とれていますか?—今夜から使える睡眠の知識—」と題してご講演いただきました。不眠で最も重要なのは、「睡眠衛生指導」である事を強調され、そのうえで、比較的新しいオレキシン受容体拮抗薬やメラトニン受容体作動薬について説明されました。不眠の基本的知識について県民に寄り添った形でわかりやすく説明していただき、参加者がうなずきながら聞いていたのが印象的でした。

最後に、質疑応答コーナーの時間を設け、事前にいただいた質問に答えていただきました。講師の先生方には、率直な質問に対して気さくに分かりやすく答えていただき、終始和やかな雰囲気でした。

参加者からのアンケート結果では全体的に満足度は高かったようです。感想では、「大変わかりやすかった」「役に立つ内容だった」「最新の情報を聞くことができた」という声を多数いただきました。



井上真一郎先生



質疑応答

た。運営面では「スタッフの対応が丁寧」「会場への誘導がスムーズ」といった好意的な意見が多い反面、「マイク音が小さい」「スマホの注意がなかった」などの意見がありました。反省点については女医部会の中でも話し合い、改善してさらに満足度が高い会にしていきたいと思います。また、コロナ禍で始まったハイブリッド開催ですが、遠方の方や外出できない方はありがたいという意見もあり、この形式で継続する意義はあったと感じました。

来年3月に県民公開講座を行う予定です。引き続き、県民の皆さまが健康に過ごしていただくために役立つ内容を企画していきます。

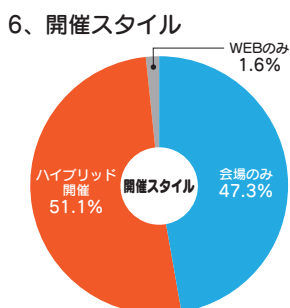
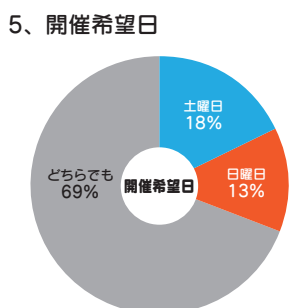
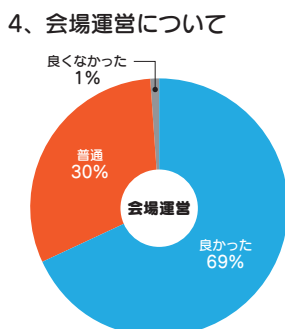
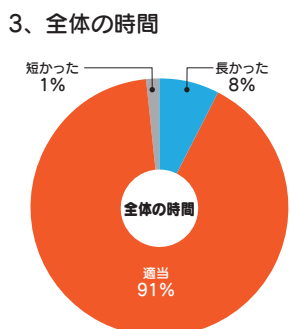
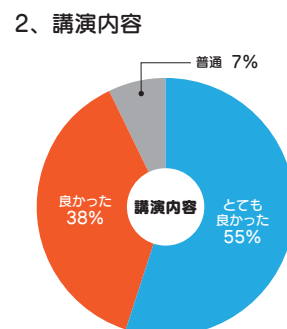
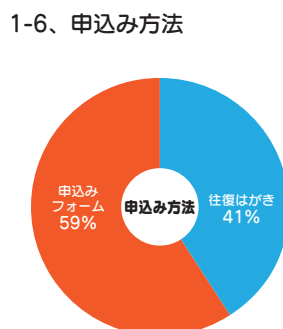
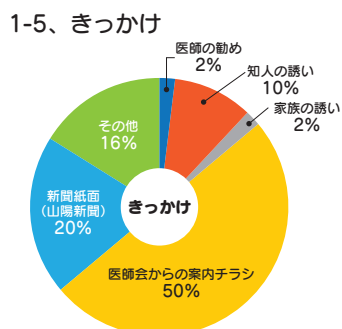
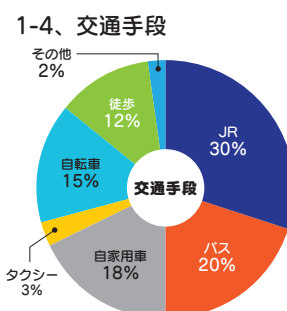
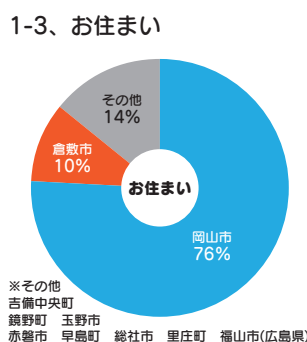
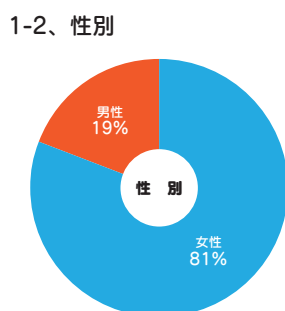
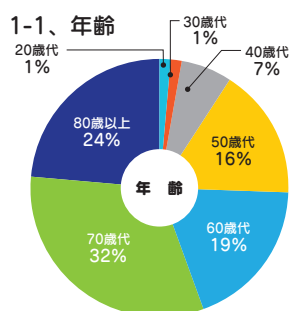


FMくらしき収録
(左：清水副部会長、右：FMくらしきパーソナリティ小橋氏)

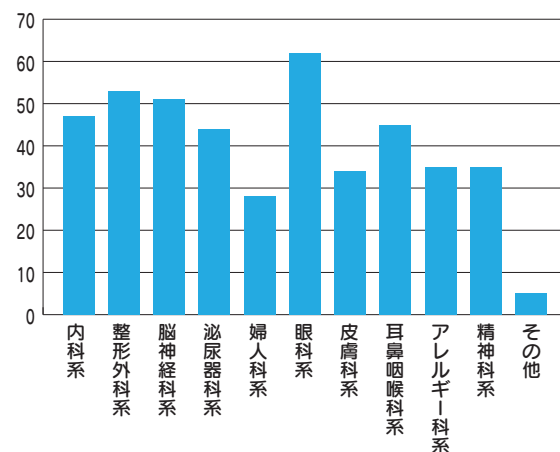
女性の健康週間 県民公開講座(R6.2.23)アンケート結果

【278名(会場参加：178名、WEB参加：100名)

回答者 215名(会場：170名、WEB：45名) ※無回答を除く】



7、次回の希望診療科



日本医師会 第18回男女共同参画フォーラム 超高齢社会に向けての男女共同参画 ～人生100年時代における多様な医師の働き方～ 参加報告

岡山県医師会女医部会委員 坂口 紀子



本フォーラムは、令和6年4月27日（土）午後、香川県医師会担当により高松市で開催された。プログラムの概要は以下の通りである。

【基調講演】

1. 女性医師を取り巻く諸課題

前香川大学学長、香川大学特命教授

香川大学イノベーションデザイン研究所所長

寛善行先生

医師の働き方改革について、2036年4月からは年間時間外労働の上限が960時間へ短縮予定である。女性医師の働き方を支援する方法としては、産後復帰の時には「ママさん医師の働き方オプション」を提案された。

2. フェムテックサービスを活用した、女性の働き方改革、妊娠期のQOL向上サポートの取り組み事例

メロディ・インターナショナル株式会社

代表取締役 尾形優子 氏

フェムテックとは「female（女性）」と「technology」を組み合わせた造語である。この会社では、遠隔健診関連事業を手がけている。遠隔での胎児モニタリングに使う小型の通信機器を開発・発売し、病院や医師の不足する地域に提供している。香川県で起業した会社が、海外にも事業を拡大し、安全な分娩をサポートする事業内容が紹介され、興味深かった。

【報 告】

1. 日本医師会男女共同参画委員会

日本医師会男女共同参画委員会 委員長

小泉ひろみ先生

男女共同参画委員会は、会長からの諮問に応え、

医療界の男女共同参画を進める場である。今期の諮問は「超高齢社会における男女共同参画の推進」であった。

2. 日本医師会女性医師支援センター事業

日本医師会 神村裕子 常任理事

「日本医師会女性医師バンク」は、17年前からの事業だが、本年5月からはハローワークとの連携を開始する。就業支援事業として、「医学生、研修医等をサポートするための会」「女性医師等の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会」「託児サービス併設補助」等を行っている。「医師の多様な働き方を支えるハンドブック」を令和3年度から作成しているが、今年度からダウンロード・プリントアウトできるようにした。

【シンポジウム】

1. 若手総合診療医が取り組む次世代の在宅医療 医療法人社団慈風会

在宅診療敬二郎クリニック 西信俊宏院長

増加する在宅医療のニーズに対応するために、診療所に必要なことは、「目指す方向性を言語化していくこと」であり、具体的にはミッション・ビジョンの作成、組織図の明示、DXの推進であると述べられた。

2. 大学病院勤務医の役割と課題

香川大学医学部総合診療学講座

石川かおり講師

大学病院を支えている若い医師がキャリアチェンジを考え、離れていく現象が起こっている。個々の医師の事情を考慮したテラーメイド支援が必要となる。

3. 眼科医生活63年を経て今思うこと、伝えたいこと ～超高齢社会に向けて～

大内胃腸科眼科医院 大内通江副院長

1936年生まれの演者が、終戦、農地改革を契機に女性として自立することを目指し、岡山大学医学部に入学、ロールモデルとなる多数の先輩女性医師

と出会いながら、出産、開業し、眼科医人生を続けた。還暦を迎えてからは働き方を変え、今まで以上に医師会活動等に力を入れた。子育ては大変だったが、周囲の温かい言葉・支援でモチベーションが保たれた。年をとっても学校医や視覚障害者支援、生活習慣の指導など、やれることはいくらでもある。常に学ぶことも大切である。ベテラン医師からのメッセージであった。



参加した先生方（左から山田常任理事、坂口委員、岡理事）

2024年6月～ 2年間 ▶ 岡山県医師会女医部会委員会

部会長 渡邊 恭子（岡山市）	委員 奥本 香苗（倉敷）	委員 木村 恵（御津）
副部会長 清水 順子（玉島）	委員 西川 真那（倉敷）	委員 大塚ふよう（赤磐）
副部会長 溝尾 妙子（新見）	委員 草場珠郁子（児島）	委員 藤原みち子（和気）
委員 坂口 紀子（岡山市）	委員 赤野 祐子（津山市）	委員 向川 朝子（邑久）
委員 金重恵美子（岡山市）	委員 西平 幸恵（玉野市）	委員 齋藤 稚里（北児島）
委員 荒木詞奈子（岡山市）	委員 西岡 奈穂（笠岡）	委員 杉原いつ子（都窪）
委員 川中 美和（岡山市）	委員 小田 幸江（井原）	委員 新津 純子（浅口）
委員 小林 敬子（西大寺）	委員 藤井 弥子（吉備）	委員 菊池 了子（美作市）
委員 横尾 雅子（倉敷）	委員 生田 夏実（高梁）	委員 石井亜矢乃（岡大）
		（担当理事）山田常任理事、岡理事

令和 6 年度

岡山県医師会女医部会 関連行事

11月

4日(日)Ⓔ

令和6年度女性医師支援・ドクターバンク連携中国四国ブロック会議
岡山県医師会館

12月

14日(土)

女医部会委員会
地域医療貢献賞・学術奨励賞・会長賞・天晴れジョイボスアワード表彰式
岡山県医師会館

15日(日)

第7回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ
岡山県医師会館

3月

9日(日)

第8回女性の健康週間 県民公開講座
岡山県医師会館 ハイブリッド開催

※ やむを得ず「延期」または「中止」になることもございますのでご了承ください。

編集後記

10月に入り、岡山でも寒暖の差が大きくなりました。急な変化で体調を崩される方も少なくありません。我が家の庭ではいつの間にかキンモクセイの香りがして、季節の移り変わりを感じます。新型コロナが5類になって約1年半が経ちましたが、外来では毎日発熱の方が来院されます。コロナ以外にも様々な感染症があり、個人個人が自覚を持って行動することが望まれます。

さて、日本の医療は大きな転換点を迎えていると感じます。働き方改革やIT化、リモート診療などによる合理化、その一方で超高齢化が進み、在宅医療や介護など合理化だけでは解決できない問題もあります。私達もいろんなコミュニケーションの方法に順応していかなければなりません。人に優しい、ひいては地球に優しい医療現場が続いていくよう、微力ながら地道に努力したいと思います。

赤磐医師会 大塚ふよう